コラム

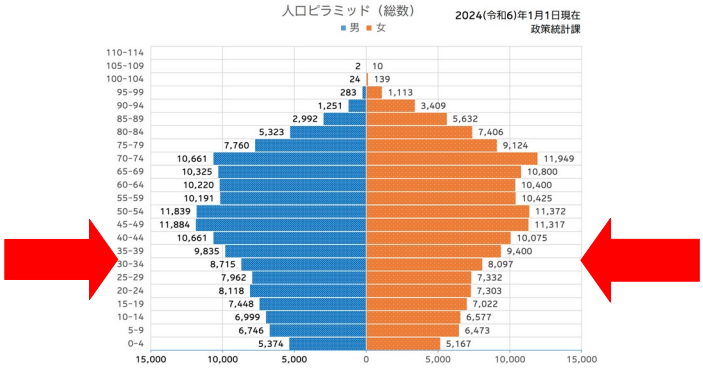
瀬田しょうこと
探してみよう、郡山から始めたいこと。

こんにちは、瀬田しょうこです。郡山生まれ郡山育ちで、安女（黎明）卒の経済学博士。日本、英国、ニュージーランドの政府・中央銀行で、市場や銀行の政策を作り運営する仕事をしてきています。１０年以上、海外で生活していて見えてきた「あー、こんなこと郡山からできたら、かっこいいなぁ」をまとめていきます。
ーーーーーーーーーー

第三回　入口のある街、郡山

「郡山から、こんなことできたら、かっこいいなぁ」のうち、今回は（→ 働く世代の人口 ←）に注目していきます。今回の内容は、ぜひとも、郡山と郡山広域圏の事業所や役所の皆さまにも読んで頂きたいです。

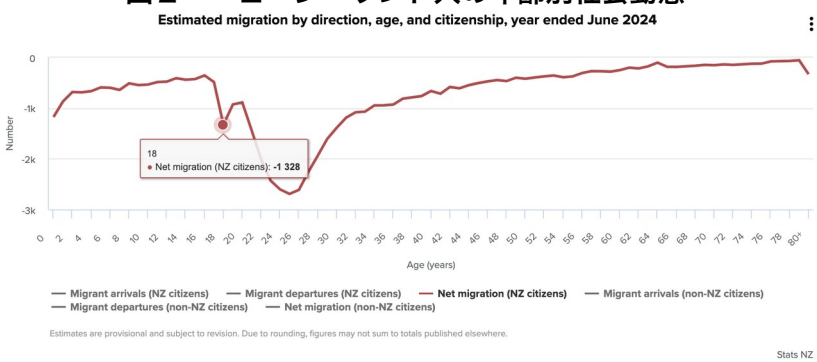
図１　郡山市人口ピラミッド[1]



出口はあるけど、入口は回転ドアだけ？
人口の社会的な動きという観点で、郡山市とニュージーランドは、とても似た状況に置かれています。郡山のすぐ近くには東京という都会があり、ニュージーランドのすぐ隣には同じ言語を話すオーストラリアという都会があります。どちらも若者が都会に流出します。

まず、ニュージーランドの年齢別人口の社会動態をみてみましょう。図２をみると、高校を卒業する１８歳から２０代の年齢層のニュージーランド人が、多く流出していることがわかります。直近一年間では、約１万６千人強の１８歳から２７歳までのニュージーランド人が純流出しました。ニュージーランド統計局によると、ニュージーランドから流出する人の半数以上がオーストラリアへの流出です。

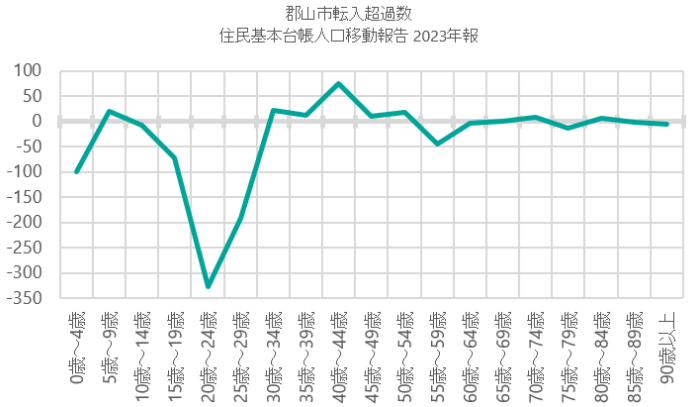
図２　ニュージーランド人の年齢別社会動態[2]



1　https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/75254.pdf
2　https://www.stats.govt.nz/news/annual-net-migration-falls/

郡山市も同じです。図３をみると、高校を卒業する１０代後半から２０代の年齢層の人が、郡山市からから純流出していることがわかります。２０２３年には、１０代後半が約５０人強、２０代前半が約３００人強、郡山市から純流出しています。

図３　郡山市年齢別人口の社会動態[3]

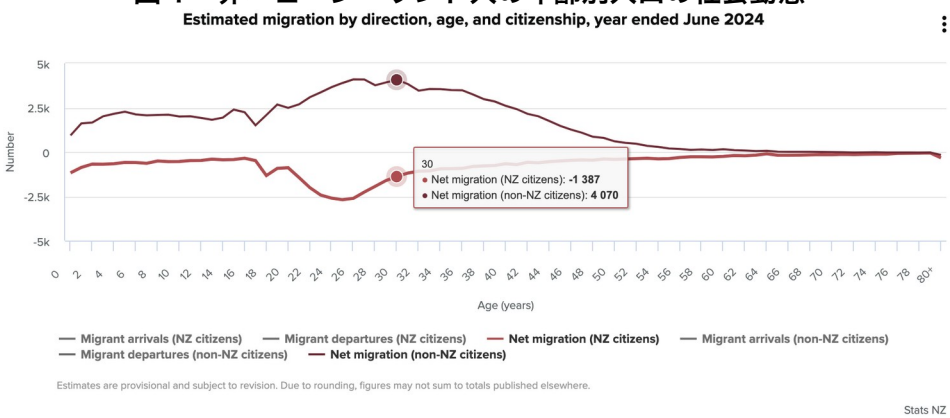


これらのデータは、郡山の若者にも、ニュージーランドの若者にも、大海を知るために漕ぎ出して行く機会が与えられていることを示しています。若者の流出は、悪いことではありません。機会があることは、とても大切なことです。

では次に、人口の流入状況を、みてみましょう。

ニュージーランドへは、ニュージーランドの外から、２０代後半から４０代前半の人が、多く流入してきます（図４の上方の線）。直近一年間では、３万８千人強の２５歳から３４歳までの人が、ニュージーランドへ純流入しました。これは、純流出した１８歳から２７歳までのニュージーランド人の数を２倍以上、上回っています。また、上方の線と下方の線の差をみると、３０代から４０代の純流入数は、その純流出数を更に大きく上回っています。

図４　非ニュージーランド人の年齢別人口の社会動態[4]



このニュージーランドの状況を、郡山という市の単位に例えて説明すると、こうです。

- 郡山市で生まれ育った若者が、高校を卒業すると都会に流出
- それと同時に、全国の市町村から、その２倍以上の２０代後半から３０代前半の若者が郡山市へ流入。さらに、それ以上の３０代から４０代の人も流入。
- 全体として、出口を出た若者の数よりも遥かに上回る働き盛り人が入ってくる

では、次に郡山市の人口流入の状況をみてみましょう。

3　https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200523&tstat=000000070001&cycle=7&year=20230&month=0&tclass1=000001148746　表番号１１－３

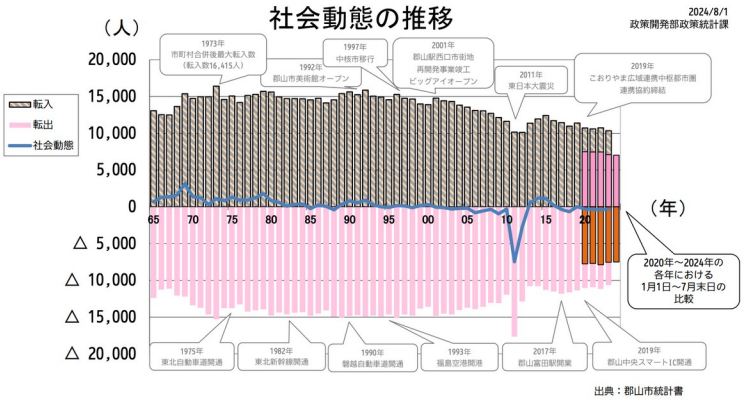
4　https://www.stats.govt.nz/news/annual-net-migration-falls/

先の図３で、２０代後半の人の移動状況をみると、ニュージーランドとは異なり、人口が流出しています。３０代から４０代の年齢層は純流入となっていますが、この流入数は１０代後半から２０代の年齢層の純流出分を大きく下回ります。

別の角度からも見てみましょう。

図５は、過去６０年間に郡山市へ流入・流出した人口を表しています。図の真ん中の青い線は、流入した人数から流出した人数を引いた純流入数です。震災の後を除くと１９８０年代後半頃から、青い線が、ずっとゼロの近くを這っています。つまり、入って来た人数だけ、出ていく構図です。

図５　郡山市人口の社会動態の推移[5]



これらのデータが示している郡山の状況は、もしかしたら、こういうことなのでは、ないでしょうか。

- 郡山市で生まれ育った若者が都会へ出る、出口はある。
- 働き盛り人が郡山市へ入るための入口は、ほぼ転勤者用の回転ドアだけ。

若者が都会に流出するという状況は、郡山市とニュージーランドも同じです。しかし、ニュージーランドには、２０代後半から４０代前半の人が多く流入してきます。このように流入してこられる理由には、働く場所に入口がある、ということが挙げられます。

<u>入口はジョブ型雇用</u>

前回、ジョブ型と呼ばれる雇用方法についてお話しました。[6]この雇用方法では、企業が必要な職務内容をあらかじめ明らかにして、その職務ができる人を採用します。なので、企業と企業の垣根を超えて、人と職務が繋がっていきます。また、越えようと思えば、地方自治体の境や、さらには国境も越えて、人と職務が主体的に繋がっていくことができます。

ジョブ型雇用の労働市場では、様々な「良いところ」が、柔軟に雇用に結びついていきます。職務とその職務ができる人が繋がっていくので、年功や性別や、どのライフステージにいるか等に関わりなく、みんな同様に働きます。企業と企業の垣根を超えて人と職務が繋がっていくので、そもそも正規とか非正規といった区分概念も存在しません。企業は様々な職務で成り立っているため、求められる人材も様々です。例えば、第一回のコラムで引用した世界銀行と国際通貨基金の人材募集のページを見てみてください。[7]

一方、労働市場が、新卒採用中心で、採用された企業内で配置を変えながら昇進していく仕組みの場合、入口は新卒時のみに大きく偏ります。企業と企業の垣根を超えて、横に動ける柔軟性が労働市場にないと、働き盛りの世代が、住みたい街に移り住むことが難しくなります。

5　https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/86047.pdf

6　第２回良いところを見つけて活かす仕組み　https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/83914.pdf

7　世界銀行　https://worldbankgroup.csod.com/ats/careersite/search.aspx?site=1&c=worldbankgroup&sid=%5e%5e%5eFLGscZMYY2RrwVaMR%2ftHYw%3d%3d
　　国際通貨基金　https://imf.wd5.myworkdayjobs.com/IMF

例えば、２０代後半から４０代の働き盛りの会社員が地方都市に移住したいと考えたとします。しかし、自分の「良いところ」を活かせるであろう企業に入口がなければ、その地方都市へ移住してくることは難しくなります。たとえ、その地方自治体が取り組んでいる子育て支援や教育に魅力を感じたとしても、生活の糧を得られであろう企業に入口がなければ、移住してくるのは難しいでしょう。ましてや、同じ仕事をしているのに、何らかの区分概念で、低い賃金しかもらえなくなるのであれば、移住なんてしてきません。

入口のある街、郡山にしたい！

入口のある街、郡山にしたい！大海に送り出した若者の数を遥かに超える働き盛り人を、柔軟に迎え入れられる街にしたい！

ジョブ型雇用は、「入口のある街、郡山」にするために、具体的に何ができるのかを考えるためのヒントです。

しかし、労働市場は、一企業が採用方法を変えたり、一個人が行動様式を変えるだけでは、変わりません。ジョブ型雇用を軌道に乗せるためには、ある程度、社会として戦略的に動く必要があります。新しい労働市場の仕組みなんて、何だか大掛かりすぎて、何をどう始めて良いか見当もつかない感じがしますよね。

問題が大きすぎる時は、第一回目のコラムでお話したように「Chunk it down!」です。[8]つまり、問題をできる大きさに分解して、小さく始めてみます。例えば、私だったら、こんなアイディアを試すところから始めてみます。

- 多様な入口があった方がいいので、「郡山市だけではなく、郡山広域圏として一緒に取り組んでみませんか？」と広域圏の皆さんもお誘いする（郡山広域圏の産業構成や立地地域は、多様な人を受け入れるためのバランスが良くとれています）

- 事業所と役所の皆さんに「次に空席がでたり、昇進試験があるときは、ジョブ型での雇用を試してみませんか？」と、参加を呼びかけ、ジョブ型雇用への認知度と参加率を高めていく

- 事業所を支援している団体（商工会議所等）とチームを組んで、ジョブ型雇用のためのノウハウを各事業所に提供する（例えば、職務内容書の作り方、公募の方法、採用面接の方法、雇用契約の結び方、採用後の社内環境の作り方、など）

- 「人を育てる街、郡山」の生涯学習の一環として、市民の皆さんが「自分は何が好きで、何が得意で、何がしたくて、どう、やりたい仕事に貢献できるのか」を発見できて、その貢献を買ってくれる雇用者のイイねぇに繋げていくためのサポートを提供する（例えば、実践的な履歴書の作り方講座など）

- 郡山の外で既にジョブ型雇用を行っている企業や、取り組みたいけどまだ実現できていない企業に「郡山から、日本の労働市場の課題解決のために一緒に取り組んでみませんか？」とお誘いし、一部または全機能の移転を誘致をする

- ジョブ型雇用に関心がある人の郡山への認知度を高めて、移住に繋げる

- 一回で全てがうまく行くはずがないし、やってみると他のアイディアも出てくるかもしれないので、定期的にうまく行ったことと、うまく行かなかったことの両方を検証して次に繋げる

- 例えば世界人材を育てる国際戦略特区[9]などになると、どんな便益と費用があるのか調べてみる

- 日本にあったジョブ型雇用の成功体験を蓄積し、必要とする企業や地方自治体に助言や研修の提供ができるようにする

8　第一回郡山と日本と英国とニュージーランド
https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/79964.pdf
9　https://www.chisou.go.jp/tiiki/sogotoc/toc_ichiran/index.html

できる大きさの取り組みから試行錯誤を重ねて、日本初のジョブ型雇用地域が軌道に乗り始めたら「あれ、郡山って、何だかおもしろそう」「あれ、郡山って、ワルくないかも」と、郡山に移り住んでくる人が増えるかもしれません。みんなが活躍できて、豊かさも高まれば、もっと人が入ってきて、更なる好循環が生まれる可能性もあります。

労働市場に新しい仕組みを導入することは簡単ではないです。でも、郡山には、新しいことに興味があって、おもしいことも好きで、結構たくましい「人」という財産があります。この財産を活かして、他の地方都市に先を越される前に、郡山から日本の労働市場の問題を解決できたら、すごくかっこイイと思います。

水の流れをつくったことで、ここまで１００年の発展ができたのであれば、ここから１００年のために、人の流れをつくることもできるような気がします。

次回は「日本一、社外取締役を見つけやすい市、郡山」という題名で、コラムを書いてみます。

おまけ
この写真は、ニュージーランドの首都ウェリントンの港です。奥に見える赤い屋根の建物は、ボート・クラブです。冬の朝なので、まだ誰もいません。建物の中には、たくさんのボートが置いてあります。

写真の右下には、詩の書いてあるオブジェが写っています。このような詩のオブジェは、ウェリントン市内の色々なところにあります。郡山だと、ちょうど音楽のベンチが、街の色々なところにあるような感じです。

たくさんある中で、私の一番のお気に入りは、これです。

この街にただ住むことなんてできない。
行動して存在しないといけない。
傍観者ではいられない。まして語るなんてできない。
ここは行動の街。「動詞」の世界司令塔。

前回のコラム
https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/45/109536.html